

2012 麗水国際博覧会視察レポート

An inspection report about "Yeosu Korea Expo 2012"

JEPC イベント総合研究所主席研究員・東京富士大学
Jepc Event general laboratory Chief researcher
Tokyo Fuji University

岡 星 竜 美
Tatsumi Okaboshi

はじめに

「2010 上海国際博覧会(登録博)」に次いで、またもアジアで開催された「2012 麗水(ヨス)国際博覧会(認定博)」について、2012年7月27日-29日に実施した視察をレポートする。



<2012 麗水国際博覧会>

開催地：韓国 全羅南道 麗水新港一帯
開催期間：2012年5月12日～2012年8月12日(3ヶ月)
面積：271万㎡(271ha)
展示面積25万㎡(25ha)のほか、付帯施設(従事者宿泊施設、乗換駐車場、公園、緑地など)を含む。

国際的には、ほぼ無名の町=麗水で、なぜ万博誘致・開催が可能となったのであろうか。

ソウルに比べ、全羅南道に位置する韓国南西部は比較的開発が遅れていたため起爆剤が必要であった。

そこで、ノムヒョン前大統領は政権時に、出身地である麗水への万博 登録博 誘致を行ったが、



2010年の上海に破れた。2度目の挑戦として規模の小さい[認定博]で挑戦、競合都市の「モロッコ」と「ポーランド」は、アジアでは日本(愛知)、中国(上海)と続いていることを指摘し“アフリカ初”“東欧初”を掲げて応戦。事前の交渉では苦戦を強いられたようだが、官民共同で強力に誘致を行い、かろうじて勝利を手にしたという経緯がある。

麗水は、近年コンビナートが発達し、重工業地帯と国立公園が隣り合わせにある港町である。万博会場の地は、新港がコンビナート寄りに新設されたために、使われなくなった港を再活用した。この港は、戦前は日本への定期航路もあったほど、日本・九州とは地理的にも関係的にも近いものであったという。

港湾として長年活用されたため、海底にはヘドロが溜まり、必ずしも海洋環境を考える博覧会にはふさわしくないと水質浄化も検討されたようだが、莫大な時間と費用がかかるため諦めたとのことである。

立地条件：

位置：内陸と海洋の拠点地域で、万博のテーマを表現するのにふさわしい地政学的位置。

景観：閑麗海上国立公園、梧桐島に隣接しており、美しい自然景観を誇る。

交通：麗水駅、麗水新港の前に博覧会場の入口があり、麗水共用バスターミナル(2km)、麗水空港(17km)に近い立地となっている。

テーマ：

生きている海、息づく沿岸 (The Living Ocean and Coast)

視察のポイント

今回の視察のポイントは、麗水万博のテーマ『生きている海、息づく沿岸 (The Living Ocean and Coast)』の”メッセージ”と、それに関わりの深い”環境”についてとした。

人口30万人の韓国の小さな港町に、忽然と現れた近未来の街「麗水国際博覧会」。

第一印象は、会場全体にテーマ『The Living Ocean and Coast ~ 生きている海、息づく沿岸』を活かした、ていねいな博覧会という感じであった。

国際館大通りの天井に設置された「エキスポ・デジタル・ギャラリー」では、観客との双方向コミュニケーションを楽しめる、デジタルコンテンツとしての大きなくじらが回遊し、まさに”生きている海”イメージをアピールしていた。



もちろんテーマ館、韓国館、各国政府の揃う国際館でも、海洋の可能性と人類の新技术を訴求しており、大いなる未開拓の資源である海への注目

を高めている。

“環境メッセージ”については、テーマ館、サブテーマ館、国際館、アトラクションのほとんどの展示や演出で、「海」もしくは「環境」メッセージが感じられた。

万博のテーマがテーマであるので、当然といえば当然かもしれないが、各出展者が各人各様の展示をするのではなく、一貫したトーン&ポリシーが感じられたため、前述の”ていねいな博覧会”との印象を受けたと思われる。

会場の「環境配慮」については、博覧会閉会後に残す常設施設(テーマ館やアクアリウム)の造り、閉会後に撤去する仮設施設の造りとの差異に目を向けた。

2005年日本・愛知県で開催された「愛・地球博」はエコテーマ(Nature's Wisdom ~ 自然の叡智)だったので、スケルトンインフィル構造(組み立て・撤去がしやすく再利用できるモジュール構造)のパビリオンが多かった。今回の麗水では、国際館がそれに当たる。



今回の視察で、パビリオン優先入場のコーディネートでお世話になった韓国のプロデューサーから、国際館は閉会後、大型ショッピングセンターとして改装オープン計画があると聞いた。

躯体を残して、新テナントに内装を任せる方式で再利用を図るものと思われる。

「環境エネルギー」については、エネルギーパークに注目した。

私たちが宿泊した万博会場最寄りのホテルの窓

から、大量のソーラーパネルが見えたため何かと思ったら、万博の展示の一つエネルギーパークであった。



エネルギーパークには太陽光発電所があり、2.2MW級の電力を生み出し韓国電力公社の配電線路へ送電、一般家庭700世帯の1年間の使用量を生産しているとのこと。韓国がこれからソーラービジネスに本気で取り組むという気概が感じられた。

また、万博のランドマークの一つ、会場内で一番高いスカイタワーは、廃棄されたセメント貯蔵庫をリフォームして造られたもので、環境にやさしい博覧会のシンボルである。



「環境配慮」としてのゴミの分別は2種(再生可能と燃焼ゴミ)、どのゴミ箱も満杯で、外にゴミ袋が溢れていて残念であった。

想像以上のゴミが出ているのか、それとも回収要員の予算化ができていないのか分からないが、日本では叱られてしまうレベルといえる。

ペットボトルや缶の処理マシンも見られた。



「バリアフリー環境」については、会場内の道路や通路の整備がかなりデコボコで、車いすの人がちょっと困る場所がいくつか見受けられた。

また、スロープが完備されていない施設も多く、バリアフリーへの配慮はエレベーター以外、特段見られなかった。



「情報環境」としては、外国客(日本人、欧米人)も多く来場しているはずだが、サインや看板、デジタルサイネージの文字はハングル語だけの場合が多く困惑した。少なくとも英語表記の併記は必須だと感じた。



IT の活用で ” 待たない博覧会 ” との前宣伝であったが、途中から入場予約システムがクラッシュしてしまい、数時間待ちの長い行列ができてしまったという。

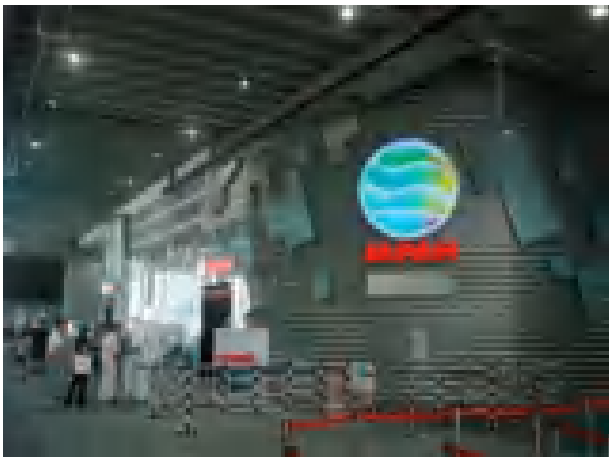
ただいくつかの細かな点を除けば、万博全体としてのクオリティは高く、コンパニオンをはじめとする運営スタッフのホスピタリティは素晴らしい。特に主催国:韓国のモチベーションとプライドを感じるていねいで活気のある博覧会であった。

私たちの宿泊したホテルの窓から、海上に造られた万博特設舞台が見えたが、夜、日本でも人気の K-POP グループライブの華やかな照明と大音量が夜の 11 時過ぎまで聞こえてきた。勢いのある韓国のイメージそのものだった。十分な広報戦略が打てておらず、目標来場者数が苦戦していたということだけが残念である。

. 視察レポート

<国際館>

日本館



・3.11 東日本大震災での各国からの支援に感謝。海の豊かさと脅威、そして災害から立ち上がる日本というメッセージだったが、全体的にしんみりしてしまった。

韓国はじめ、他国が元気なメッセージを送ってくる中で、日本だけが元気が無い印象を受けた。

リトアニア館

・映画「ジュラシックパーク」に出てきたような、小恐竜、昆虫や植物の化石が閉じ込められた琥珀の展示が美しい。



アルゼンチン館

・世界で最も規模の大きい沿岸地域を誇るアルゼンチンの、クリーンエネルギーを訴求。

パビリオン内部が、オトナのクラブ風(バーカウンターあり)で、日本に無いテイストとゆるい運営に軽いショックを受けた。



テーマ館:海洋ベスト館

・万博のテーマ館「海と人類の共存」。ジュゴンの赤ちゃんをナビゲーターとし、インタラクティブ

ブ対応で笑いあり感動ありの演出。テーマに忠実なつくりに感心した。



サブテーマ館 アクアリウム

・「海洋生物の多様性と美しさ」。スケール大きな水族館だが、日本の最先端水族館を見ているので、とりたてての感慨は無かった。



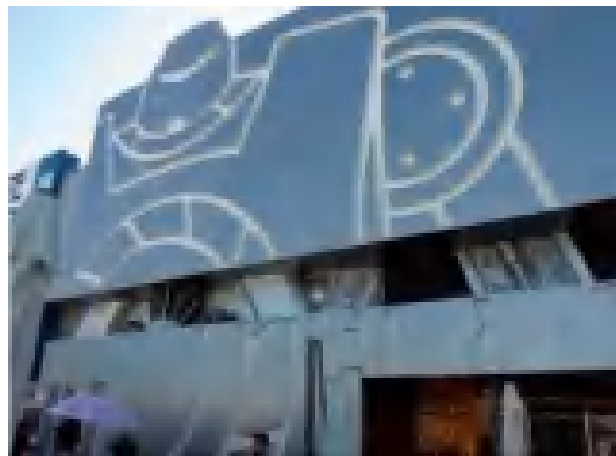
韓国館

・「韓国人の海に対する思いと海洋能力」。韓国の海水淡水化技術を通して、砂漠を緑地に変えるという壮大なビジョンを、世界最大級ドーム型スクリーンに展開され圧倒された。



大宇造船海洋ロボット館

・「人間とロボットが共に切り開いていく未来」。日本のロボット技術を知っていると、少しもの足りない。人型ロボットではない、新しいアプローチをもつロボットを見たかった。



<特設企業館>

POSCO 館

・「自然、人、POSCO が実現するコミュニケーション」。貝のような螺旋の巨大内部空間で、キャラクター：ビックマンが現れ、驚愕のダンスを披露。

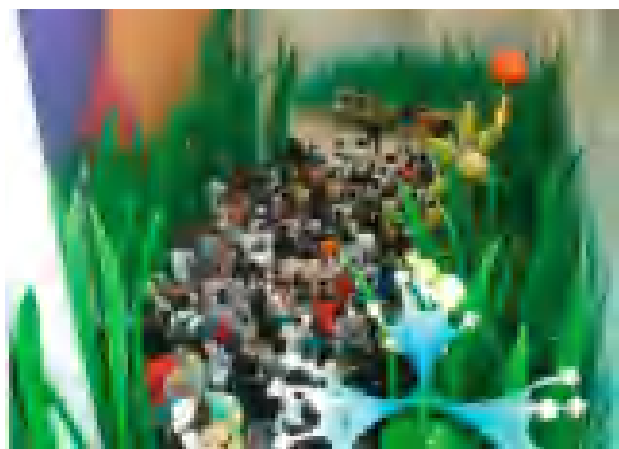


メッセージとエンタティメントの融合度は高い。



LOTTE 館

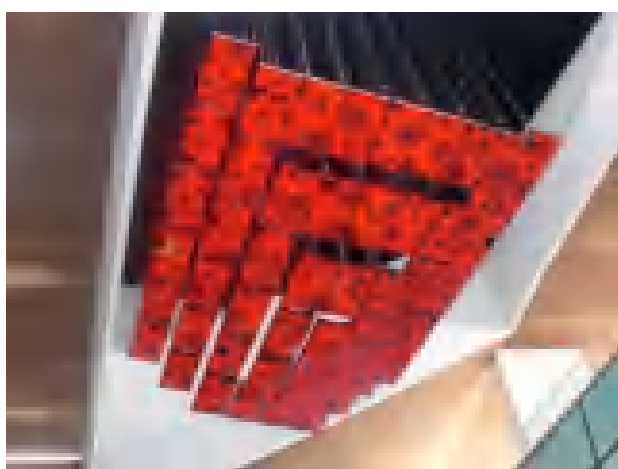
- ・「笑顔が満開の世界に向かう気球の旅」お菓子メーカーだけあって、こどもとファミリーに焦点を合わせた夢とファンタジックな演出。動く大型ライドで、アトラクション性が高い。



LG 館

- ・「Life is Green」パビリオンの外を滝が覆い、室内温度やエネルギー効率を高めている。広いロビーの天井に、メディアシャンデリアとして

マルチモニターが吊られ、動き変化する。



SK テレコム館

- ・「Happy voyage」韓国の IT 国家戦略に大きく貢献した SK テレコム。スマートフォンを通して、人と人との関係と共有をアーティスティックに訴求。



HYUNDAI MOTOR 館

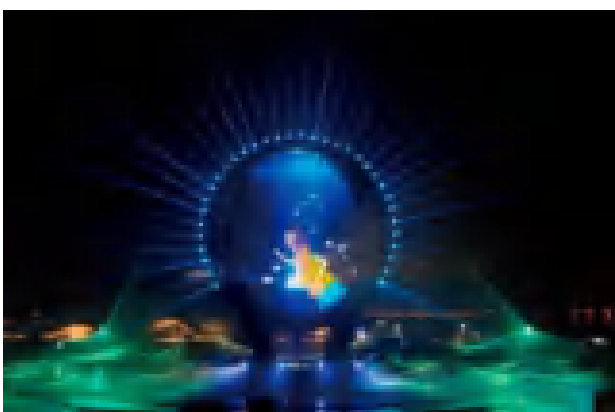
- ・「同行-より良い未来に向けて一緒に歩く」多くの小さなキューブで構成された3つの壁面がダイナミックに動き、立体的な映像が映し出され

るハイテクビジュアルスペースに感心。
自動車メーカーとしての、最先端テクノロジー
イメージの訴求に成功している。



<ショー>

The Big-0 Show

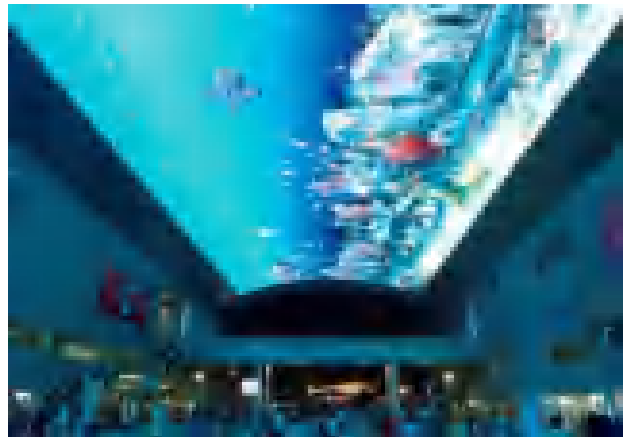


・万博のシンボルオブジェ。昼間も目を止めるが、
夜はまた美しい。ショーの時間になると周辺は
大量の観客で埋め尽くされたため、私たちも正
面ではなく斜めからの鑑賞となり、また韓国語
のナレーションのため、しっかりとストーリー
を楽しめなかったが、ムービングライト、噴水、

炎、3D ウォータースクリーン映像と、マルチな
仕掛けと演出は迫力もの。一見の価値あり。だ
が、もう少し時間が短くてもよかった。

エキスポ・デジタル・ギャラリー

・米ラスベガスのフリーモントストリートを彷彿
とさせるハイテクアーケード。麗水の方は、イ
ンタラクティブ性に優れている。IT 国家 韓国
の意地を表した、迫力の大通り。



路上パフォーマンス

・韓国の伝統的結婚式のパレードや大型マリオン
ネットなど、定期的を実施している。



<その他>

国際メディアセンター

・万博会場のすぐ外に開設。マスコミが会場内
に入らなくてよく、閉場後にも出入りできるいい
立地設計とのことだが、メディア各社が利用し
ていないとのこと残念。

スタッフ宿泊施設

・会場周辺に隣接するカラフルな高層マンション
は、スタッフ用の宿泊施設として利用されてい

るが、万博終了後は分譲マンションとして販売されるという。

夜景

- ・海辺の博覧会、麗水の夜、そして万博会場のライトアップは美しい。

<韓国国内での最終報告>

最終入場者数：8,203,956人

韓国国内でのプラス評価

- ・基本的に興行・コンテンツは成功
- ・麗水市民としても都市のインフラ（KTX、高速道路など）ができて満足

問題点

- 1) 無料観覧客（3,000ウォン）の動員 に対する批判
- 2) 赤字に対する責任問題（国と地方政府の対立）
- 3) 事後活用に対する計画なし（現在協議中）など

万博は1970年、アジアで初めて日本が開催を実現し大成功を成し遂げた。その後も、1975年「沖縄海洋博」、1985年「つくば万博」、2005年「愛・地球博」など、日本がアジアをリードしてきたが、昨年の中国「上海万博」や今回の「麗水万博」を見ると、明らかに差は縮まっている、もしくは追いつかれていると感じた。

彼らが万博の経験を積むことで、日本を凌駕する日も来るかもしれない。私たち日本のイベントの奮起の時である。

最後に、今回貴重な視察の機会を与えていただいたJACEの皆さま、パビリオンへの優先入場をコーディネートいただいた福嶋 知団長、旅を細やかに気配りいただいた岡 正和副団長、そして韓国のプロデューサーの皆さま、献身的に動いてくれた通訳の千善伊(チョン・ソンイ)さん、同行団の(株)マッシュ伊東睦啓さま、松竹芸能(株)阪岡裕貴さま、有意義で楽しい視察旅行に深く感謝します。